



N21 IBM Rational Collaborative Lifecycle Management for IT
Technical Sales Mastery Test v1 事前学習資料

Rationalの新ソリューション基盤
「CLM(コラボレーティブ・ライフサイクル・マネージメント)」
を徹底解説！

CLM が実現する、これからのチームインフラ

日本アイ・ビー・エム株式会社
Rational 事業部



紹介資料の構成

- コラボレーティブ・ライフサイクル・マネージメントとは？
- 日本において CLM が必要な理由
- 5つの目標と行動規範
- IBM Rational 全体像と Jazz Initiative
- CLM ソリューション製品の紹介
- 事前学習のポイント及びまとめ

コラボレーティブ・ライフサイクル・マネージメント

年間4~6%の生産性を向上する ALM の進化形ソリューション

- 5つの目標を成就する行動規範

1. 開発リードタイムを短縮する、リアルタイム・プランニング
2. 品質を向上する、ライフサイクルでのトレーサビリティ
3. 価値を最大化する、文脈に応じたコラボレーション
4. 予測の精度を向上する、開発インテリジェンス
5. コストを削減する、継続的な改善

- 3つの管理インフラを統合

要求管理

構成・変更管理

品質管理



Rational
Requirements
Composer



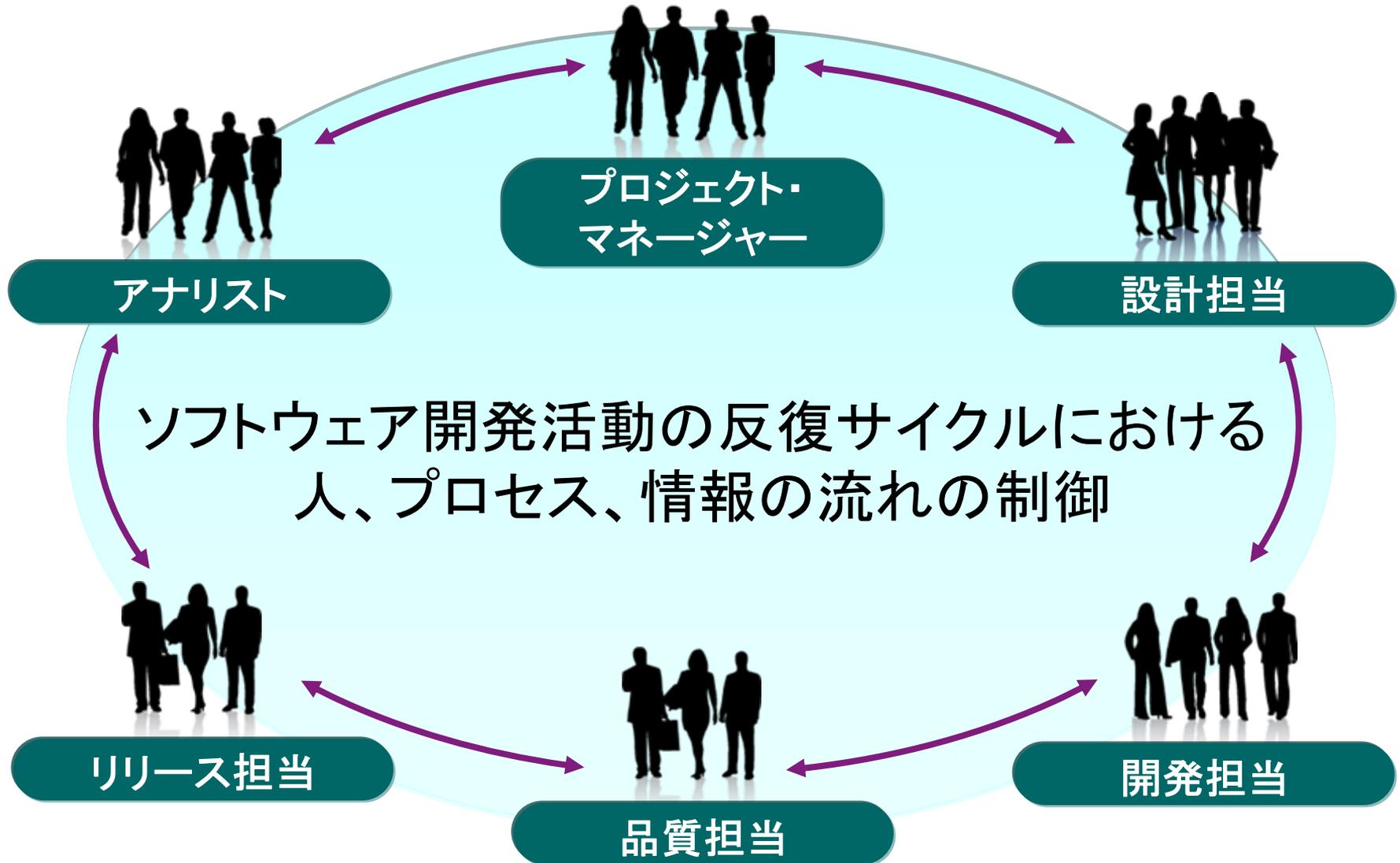
Rational
Team Concert



Rational
Quality Manager

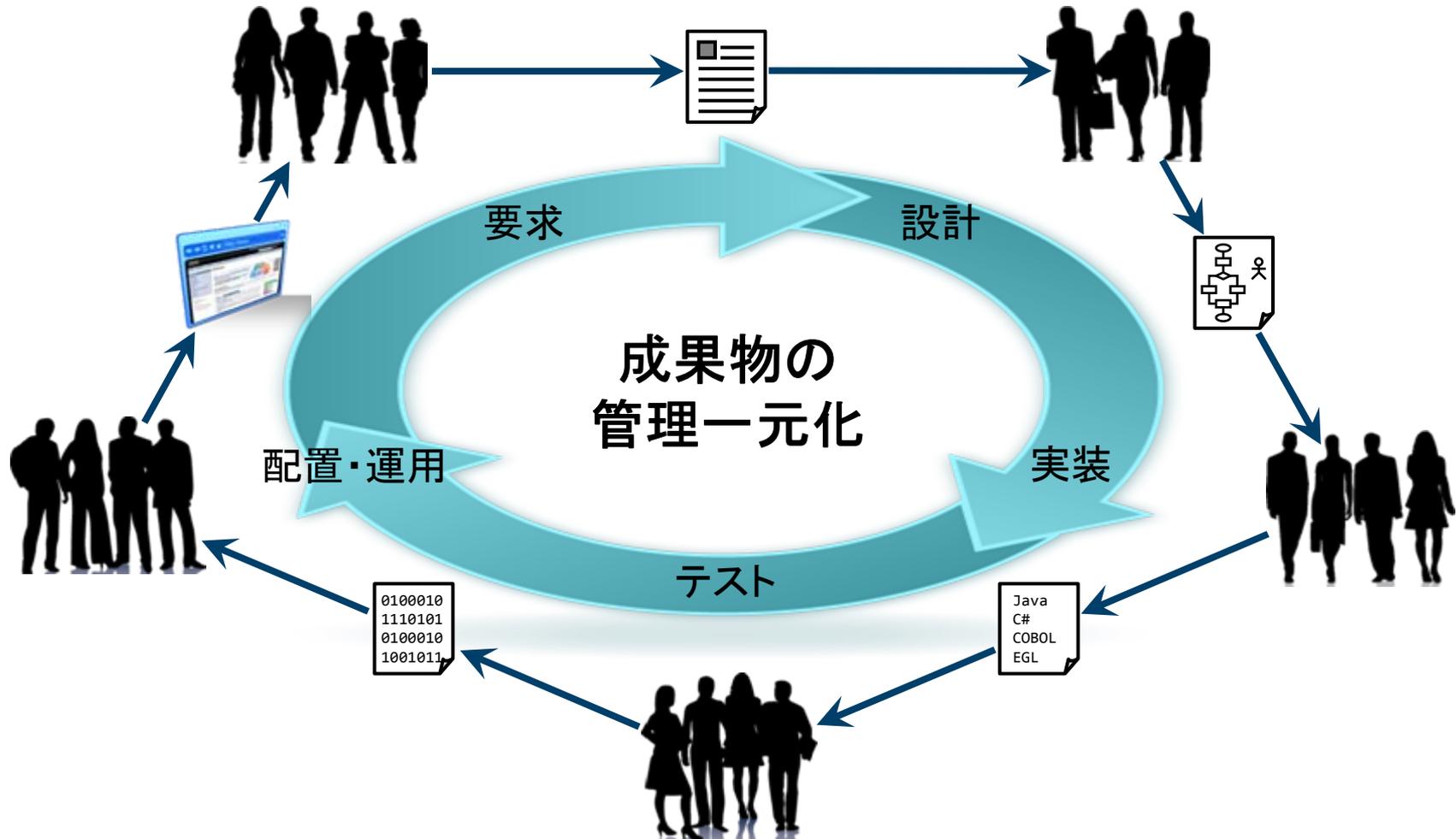


アプリケーション・ライフサイクル管理 (ALM)



ALM ソリューションの実際

- 成果物による工程のつながり／役割は分断されている



IBM Rational は、ALM のリーダーとして認知されています

「デリバリー・プロセスの効率的な調整と自動化を実現するには、各種アクティビティーの計画、評価、実行、管理およびレポートに対する、**新たな協調型のアプローチ**が必要です。」

「これらの**新たなアプローチ**が、現在のアプリケーション・ライフサイクル管理 (ALM) ツールを差別化するものであり、ALM プロセスを最前線の開発アクティビティーに不可欠なものとしています。」

「ALM は、**持続可能なアジャイル・プラクティスを可能にします**。ALM は、アジャイル・チームの意思決定および作業についての一貫性ある監査可能な記録を行うための管理フレームワークを提供します。」

Duggan, Jim & Murphy, Thomas E., 「MarketScope for Application Lifecycle Management」, 「Gartner, Inc.」, 2010 年 11 月 11 日 ID Number: G00208572 (2, 6 ページ)

IBM は、**「Strong Positive」という最高評価を受ける**

	RATING				
	Strong Negative	Caution	Promising	Positive	Strong Positive
AccuRev			x		
Aldon			x		
Atlassian				x	
CollabNet				x	
Digite			x		
HP				x	
IBM					x
Kovair			x		
Micro Focus			x		
Microsoft				x	
MKS				x	
Parasoft			x		
Polarion Software			x		
Rally Software				x	
Seapine Software			x		
Serena Software				x	
SmartBear Software			x		
TechExcel			x		
ThoughtWorks			x		
VersionOne				x	

IBM Rational は、ALM のリーダーとして認知されています

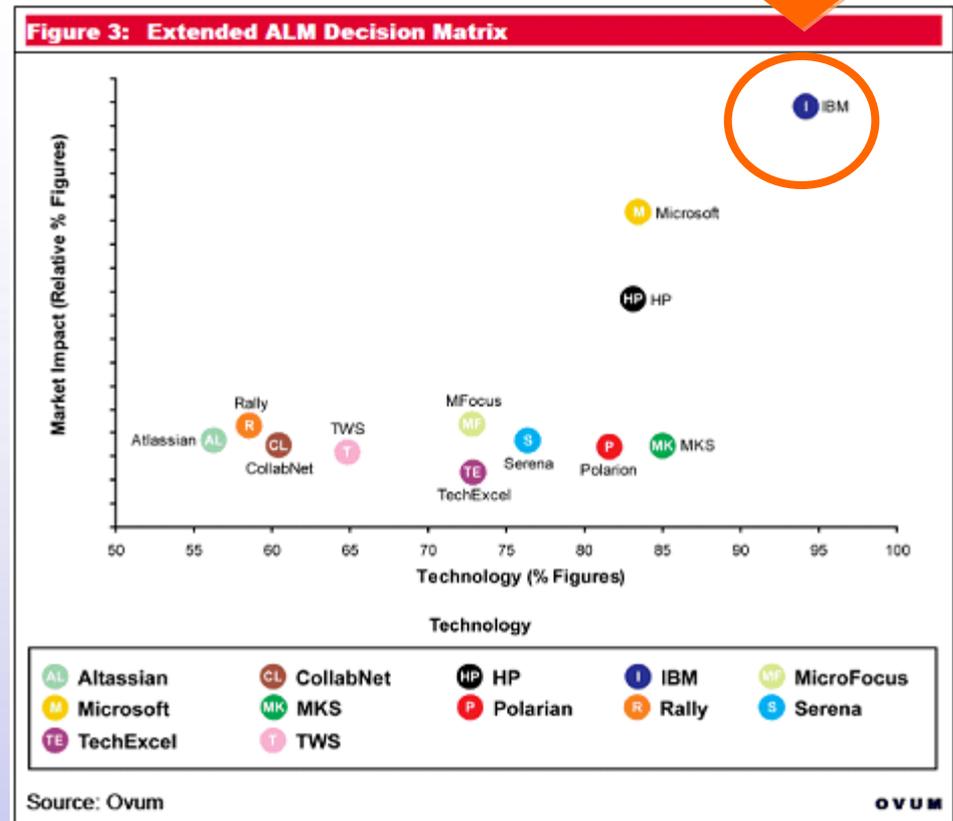
Ovum 社の意思決定マトリックス: ALM ベンダーの選択

参照コード: OI00068-002 出版日: 2011 年 3 月

著者: Chandranshu Singh、Tony Baer、Michael Azoff

レポートの主要ポイント

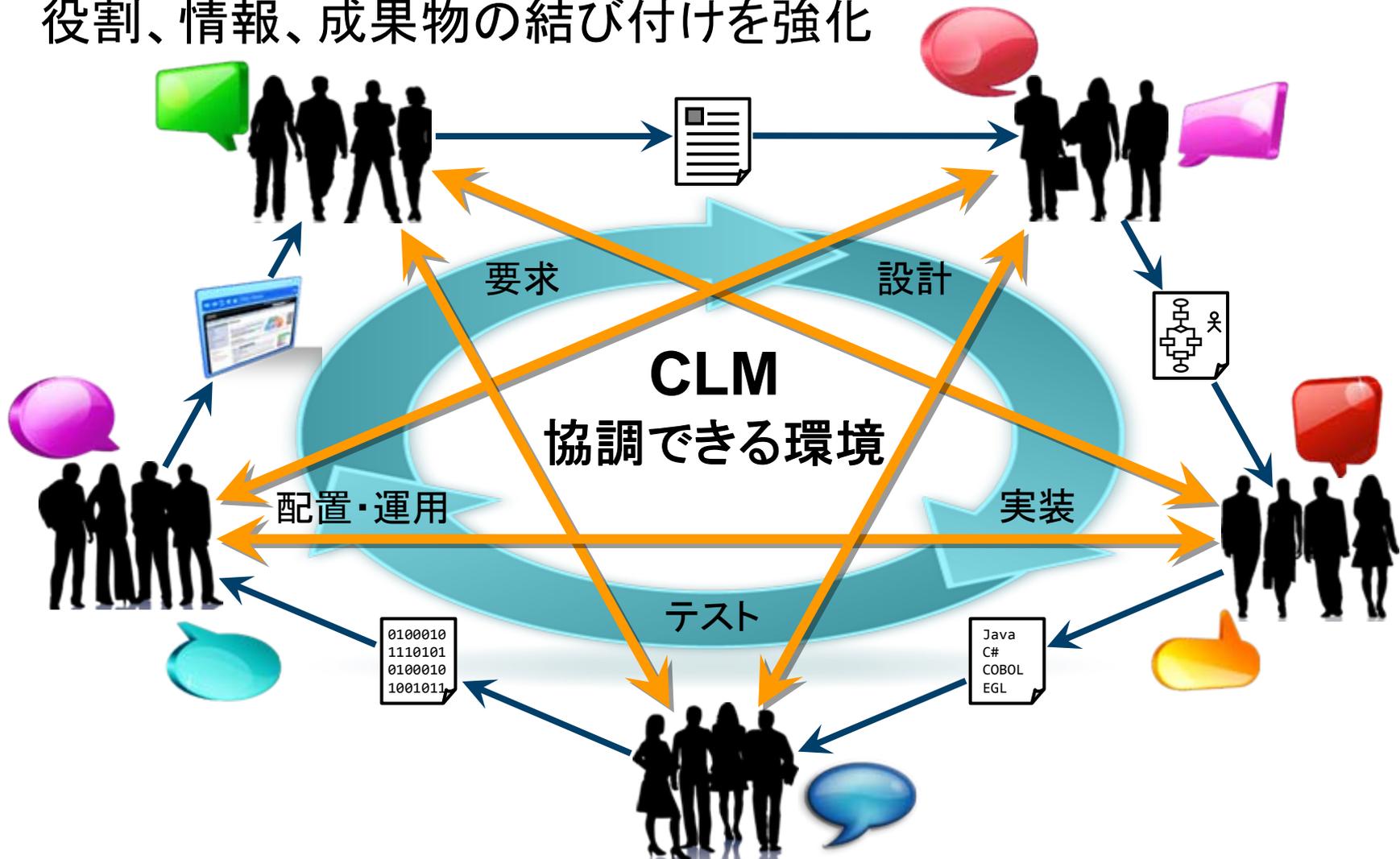
- 「IBM は、本報告書に記載のある全ベンダーの中で、最も幅広く、ほぼ間違いなく最も層の厚いポートフォリオを有しています。」
- IBM のテクノロジー・スコア: **94.3%**
- IBM のマーケット・インパクト・スコア: **10/10**
 - 最高スコア!
 - 他のすべてのベンダーは、IBM との相対評価でランク付けされている
- 「さらに、同ベンダーは市場需要を適切に把握し、ツールのサポートに基づいてこの需要に対応することで、他のベンダーを凌駕している。」



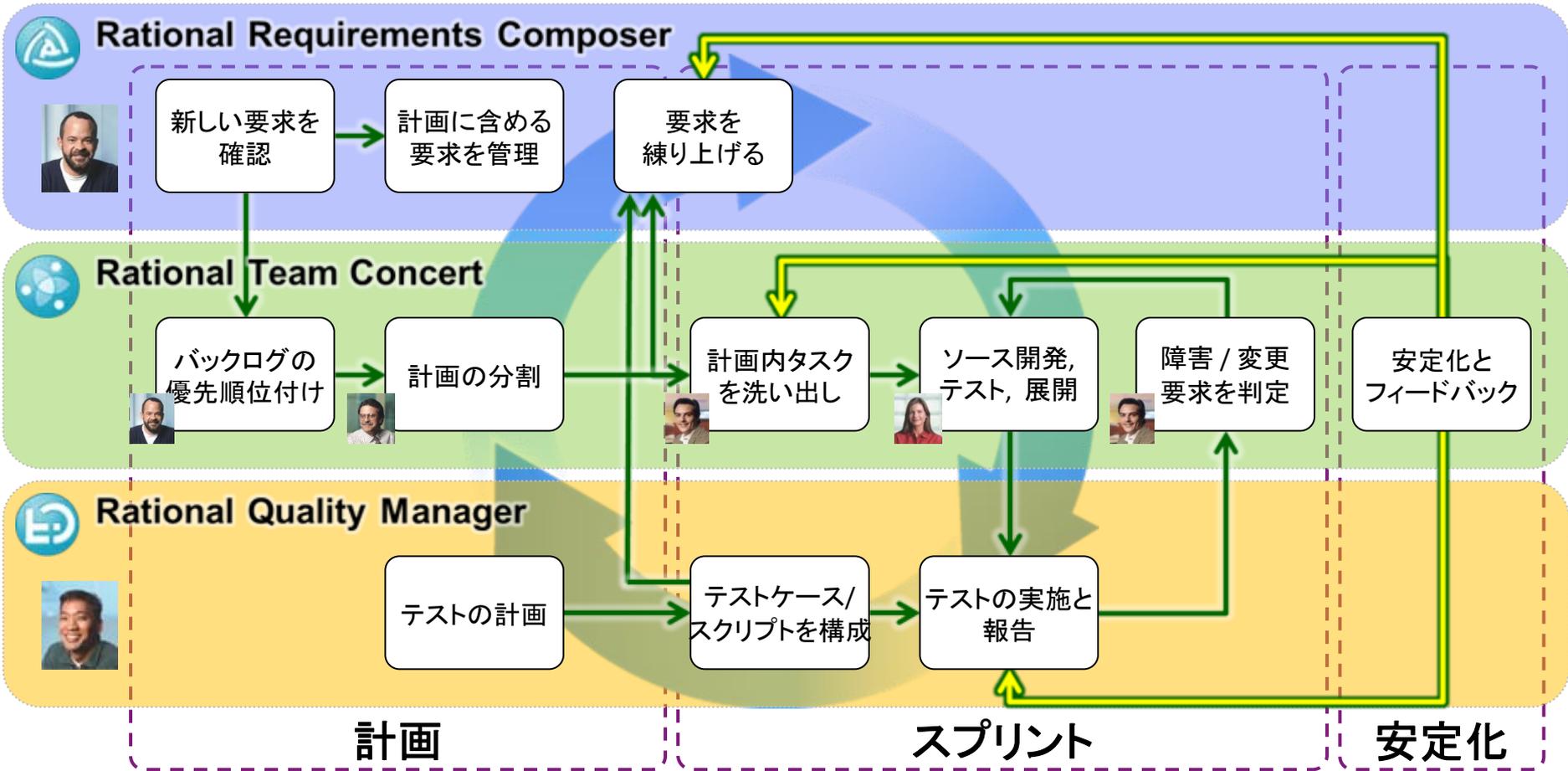
©Ovum published 3/2011 - 本レポートは、ライセンス製品であり、コピーすることは禁じられています。

コラボレーティブ・ライフサイクル・マネージメント

- 役割、情報、成果物の結び付けを強化



管理システムのシームレスな統合



日本において CLM が必要な理由

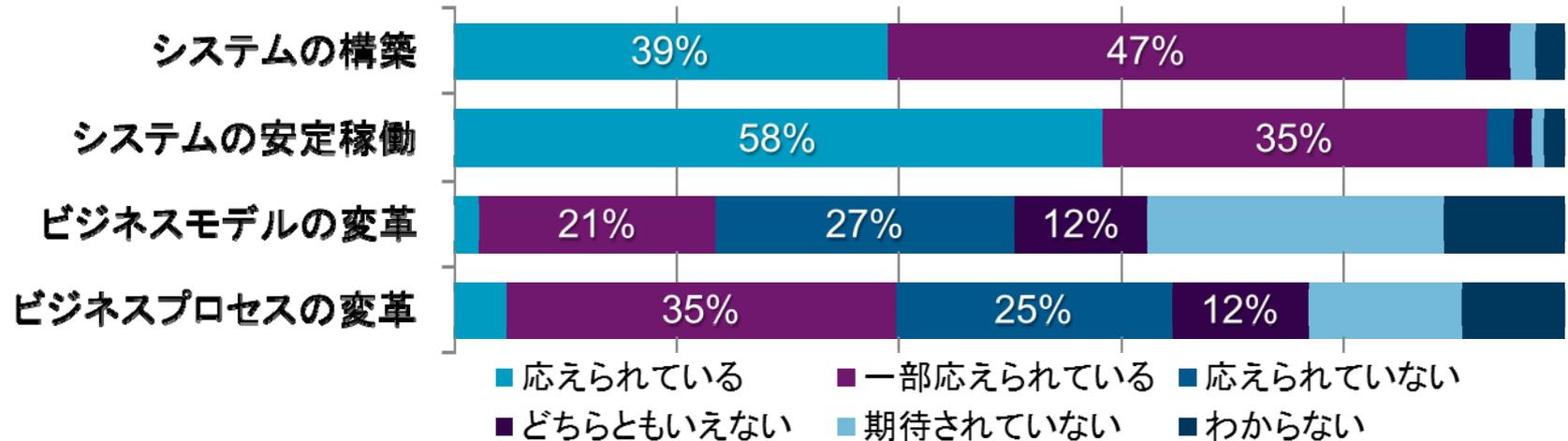
～ 企業 IT 動向調査に見る IT への期待と課題 ～

(社) 日本情報システム・ユーザー協会

第17回 企業IT動向調査2011 <http://www.juas.or.jp/servey/it11/>

ビジネスへの貢献に大きな期待

● 経営層からIT部門への期待と貢献度



● IT投資で解決したい中期の経営課題

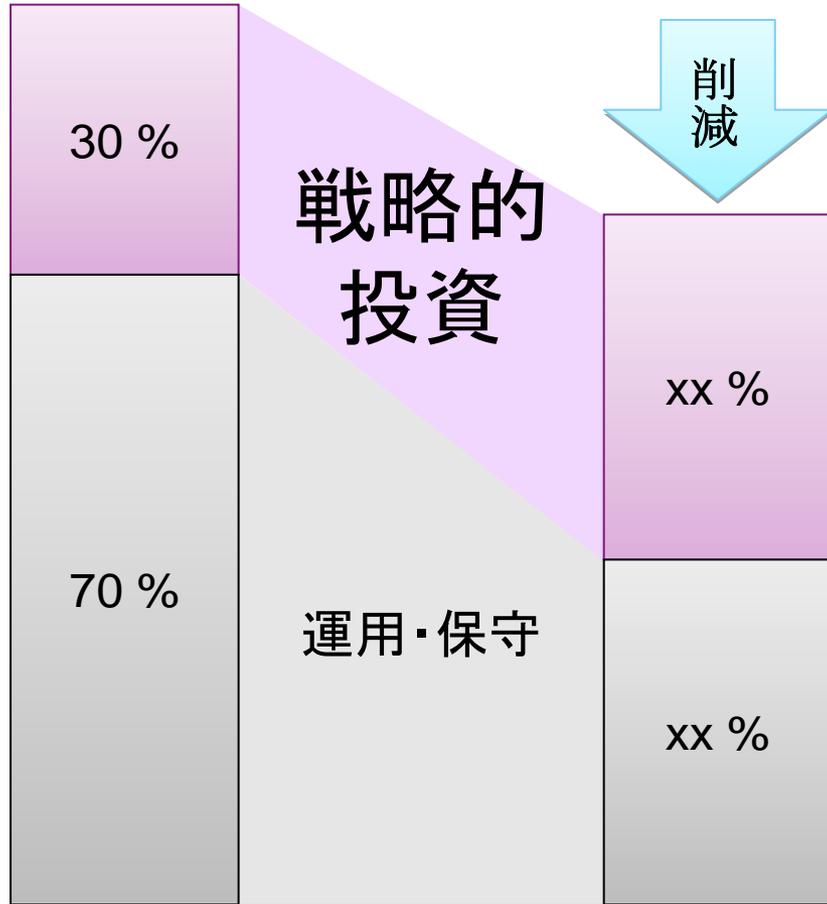


出典：日本情報システム・ユーザー協会「第17回 企業IT動向調査 2011」P.65, P.94

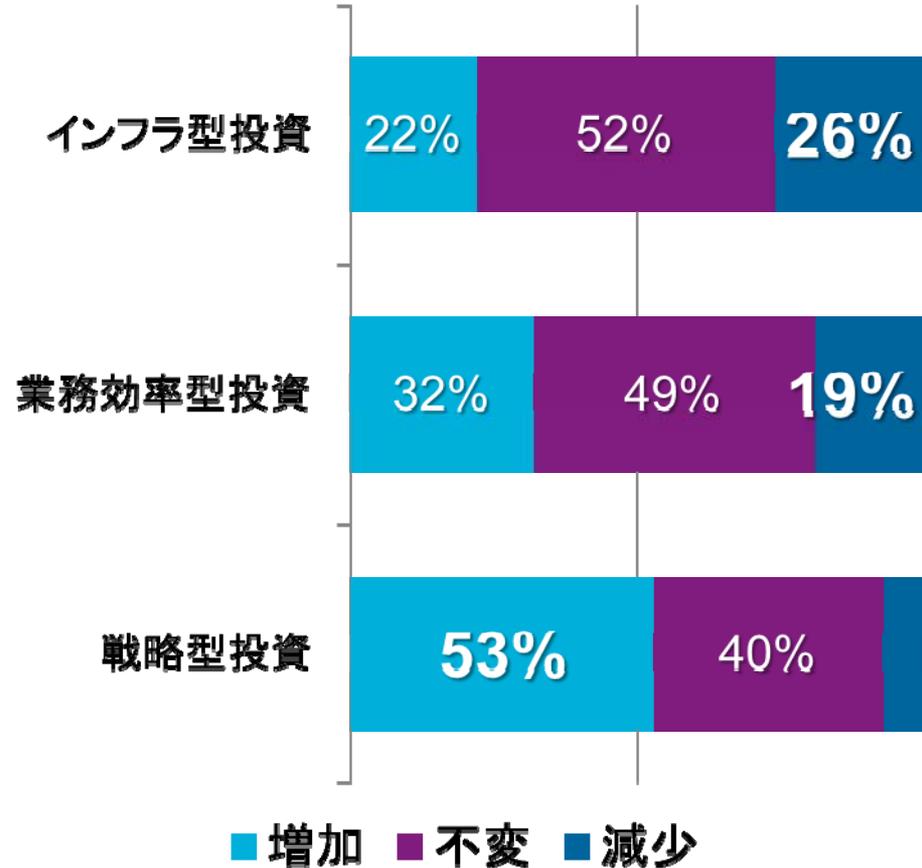
ITの支出配分の傾向

現在の配分

理想配分



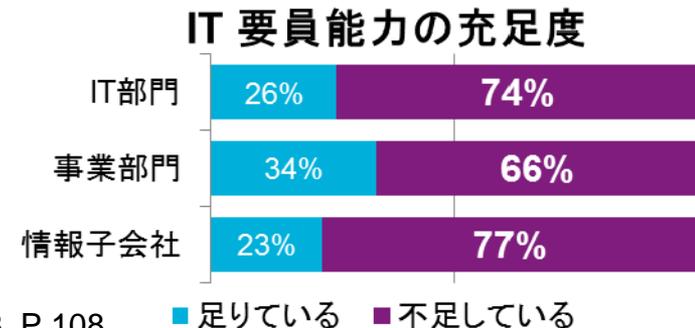
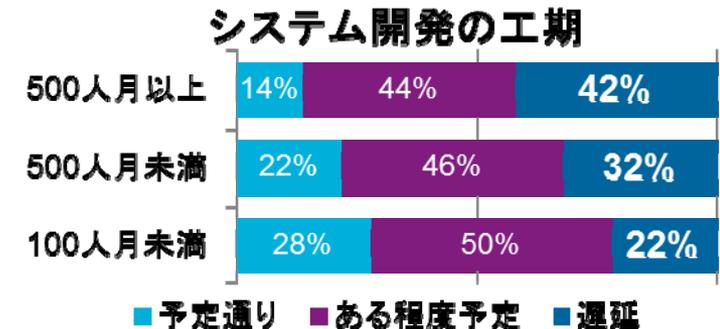
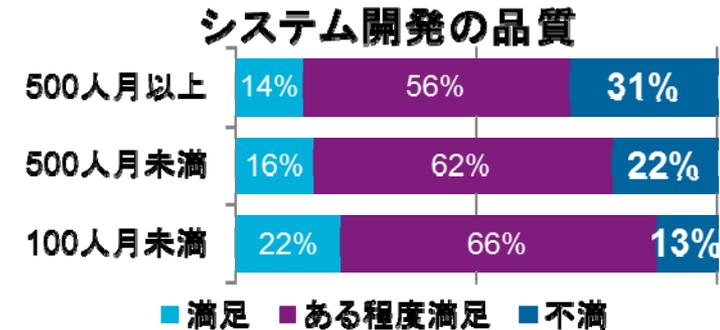
IT投資の今後の方向性 (※)



※出典: 日本情報システム・ユーザー協会「第17回 企業IT動向調査 2011」P.70

システム開発における品質・納期・コストの状況

- 顧客満足度が向上しない
 - 品質の要求レベルが上がっている
- 4割以上のプロジェクトが納期遅れ
 - プロジェクトの短期化
 - 要求の変更による手戻り
- IT要員の能力不足
 - 業務知識や企画提案



出典：日本情報システム・ユーザー協会「第17回 企業IT動向調査 2011」P.120, P.118, P.108

5つの行動規範の実践

5つの行動規範

1. 開発リードタイムを短縮する、リアルタイム・プランニング
2. 品質を向上する、ライフサイクルでのトレーサビリティ
3. 価値を向上する、文脈に応じたコラボレーション
4. 予測の精度を向上する、開発インテリジェンス
5. コストを削減する、継続的な改善



リアルタイム・プランニング

- 要求, 開発, 企画およびテストの各作業工程において単一の予定を提供
- チームの全員がプロジェクトの状態を理解できる、実績と統合された計画
- 不測の事態への対応に必要なリアルタイム・データを提供

Team Member	Completed Items	Pending Items	Progress Status
熊田彩日	3	3	92/103 +20%
熊田貴之	2	2	2/14 -7.75%
熱海英樹	0	4	61/76 +7.7%
田中マルコ	0	3	2/10 -5時間
田西よしお	0	7	0/0 +0時間
金元 隆志	1	1	12/20 -29%

Task	Status	Story	Min	Max
テスト - Test Script (アカウントに応じて量を増やす)	New	--	--	--
ミーティング時間が長い	Resc	--	--	--
テスト - Test Script (割合およびパーセンテージに応じて)	In Pr	--	--	--
テスト - Test Caseの要約セクションを完了してください	Done	--	--	--
実装 - 分割寄付の頻度	In Pr	--	--	--
実装 - 組織がどの程度の金額が必要なのを確認でき	In Pr	--	--	--
実装 - 義援金コーディネータはウェブサイト上の情報	In Pr	--	--	--
実装 - 寄付者は金額によって分けられる	New	--	--	--
テスト - キャンペーンサイト機能の確認	New	--	--	--
テスト - Test Caseのテスト・スクリーンショットセクションを完	Done	--	--	--

ライフサイクルでのトレーサビリティ

- ソフトウェア成果物同士を関連を付ける
- 規律を守るために成果物のギャップの認識と解消
- メンバーが完全に情報を基に決定できるよう、関連する成果物へのアクセス
- 要求からリリースに至るまで完全に明瞭なビュー

JKE Banking (Requirements)

要求ダッシュボード 成果物 コレクション レポート

JKE Banking (Requirements) > ... > Collections >

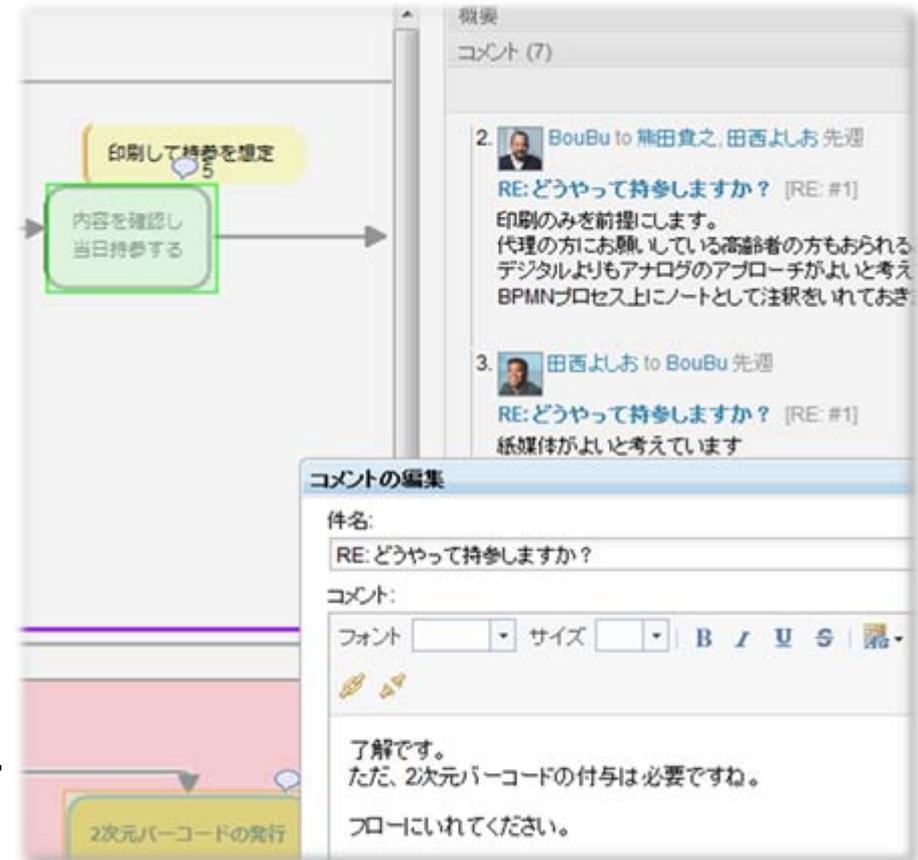
106: リリース1.0機能

ページサイズ: 20

	ID	名前	実装元	検証元
<input type="checkbox"/>	32	どの程度の義援金が集まりそうなのかを組織が認識出来るようにする	60: 組織がどの程度のコレクションが必要なのかを確認できなければならない	6: Organization must identify how much money is desired
<input type="checkbox"/>	40	パーセンテージで分割量を決める	57: 組織単位でパーセンテージを計算する	3: パーセンテージで分割量を決める
<input type="checkbox"/>	57	分割された支払いプロセスであってもトランザクションとして一回だけにする		
<input type="checkbox"/>	58	配当基準	70: 寄付者は金額によって分けられる	16: Donor dividend allocation conforms to stated criteria
<input type="checkbox"/>	61	プール金に対する寄付者への課金	56: 義援金は補助的なファンドに一旦蓄積される	2: Donors Deposit Money Into a Pooled Assistance Fund
<input type="checkbox"/>	70	リクエストの内容のコピーは別途郵送でも送付されること	58: リクエスト内容のコピーは別途郵送でも送付される	4: Process hard copy requests
<input type="checkbox"/>	83	割合はパーセンテージに応じて定められる	72: 割合はパーセンテージで表示する	18: 割合はパーセンテージに応じて定められる

文脈に応じたコラボレーション

- すべてのメンバーが作業に適用するために、開発しているソフトウェアの情報にアクセス
- フィードバックが早期かつ頻繁に成果物のコメント欄に組み込まれるので、レビューや承認を円滑化
- メンバーが世界規模で効果的にコラボレーションするために単一のシステムを参照



開発インテリジェンス

- ソフトウェア開発にビジネス・インテリジェンスの技法を適用
- 客観的なデータやメトリクスに基づいて、適切なタイミングで現実に沿った意識決定を可能にする
- 早期の問題認識、リスク管理および傾向分析で、納品予定を守るプロジェクト運営



継続的な改善

- 継続的にベスト・プラクティスを採用して手作業、非創造的、ミスが発生しやすい作業を軽減
- 予期しない問題を低減して、チームが仕事のリズムを確立することを支援
- チームの障壁を取り除く追加の改善の即座に推進
- 開発サイクルの短縮と生産性の向上

The screenshot displays the JKE Banking (Change Management) project dashboard. The interface includes a navigation bar with tabs for '一般', '開発進点', '概要', '計画', '要求', '開発', 'テスト', '品質状況', and 'レポート'. Below the navigation bar, there are sections for '東京 IT本部' and '大阪 開発本部'. The main content area displays a list of requirements and change management items, including 'CLM_test_jp (要求)', 'JKE Banking (Requirements)', 'CLM_test_jp (変更管理)', and 'JKE Banking (Change Management)'. A '最近の...' (Recent...) section shows a list of project activities with dates and counts, such as 'リリース1.0機能 (106) 昨日' and 'IT要求プロセス (28) 昨日'. The dashboard also includes a 'Release Engineering イベント' section with a list of release events.

IBM Rational CLM ソリューション

- 5つの行動規範
 - リアルタイム・プランニング
 - ライフサイクルのトレーサビリティ
 - 文脈に応じたコラボレーション
 - 開発インテリジェンス
 - 継続的な改善
- 5つの目標達成
 - 開発リードタイムを短縮
 - 品質を向上
 - ソフトウェアの価値を高める
 - 予測の精度を向上
 - コストを削減

- 3つの管理インフラを統合



期待される効果

行動規範	品質	コスト	納期
リアルタイム・プランニング			
ライフサイクルでのトレーサビリティ			
文脈に応じたコラボレーション			
開発インテリジェンス			
継続的な改善			

IBM Rational 全体像と Jazz Initiative

IBM Rational のカバー領域

戦略的価値

ビジネスの計画と適正化

プロジェクトのビジネス効果を測定 | IT 投資の優先付け
ITのビジネス価値を理解 | リスク管理と変更の影響分析

統合アプリケーション・ライフサイクル管理

チーム, 職務, プラットフォーム, 地理を問わないコラボレーション

セキュリティー
ライフサイクルの
全般に浸透

- コラボレーションのための
カスタマイズ可能なプロセス
- バージョン整合
- 可視化と透明性
- プロジェクトの実行と
リンクする計画

エンタープライズ・
モダナイゼーション

現代化による統合
でマルチプラッ
フォームでの開発

コスト削減

設計, 開発 および 展開

要求定義 | アーキテクチャー | モデリング | 開発
テスト | 配置とリリース | 運用

オープンな基盤によるデータ、ツールの統合、自動化

IBM Rational の方向性

開発からデリバリーへ軸足をシフト

- スクラッチ開発のボリュームは減少している
- IT のデリバリーは企業の重要なビジネス・プロセス

ツールからソリューションの提供へシフト

- デリバリー全般の支援には人、データ、ツールの連携が必須

具現化の取り組み



Jazz Initiative

COMMUNITY

透過的なコラボレーションとアイデアの交換



PRODUCTS

Jazz platform を活用したアプリケーション・ライフサイクルツール

PLATFORM

 *Open Services for Lifecycle Collaboration
and
Integration Services*



Application frameworks and toolkits

IBM ソフトウェア・グループの変革

Software and systems delivery

統合

- 共通アーキテクチャー
- デザインの外側
- プロセスとツール
- 再利用
- コンポーネント化

コラボレーション

- オープンで共通のプラットフォーム
- チーム全体で目的共有
- 活気ある専門家のコミュニティ

最適化

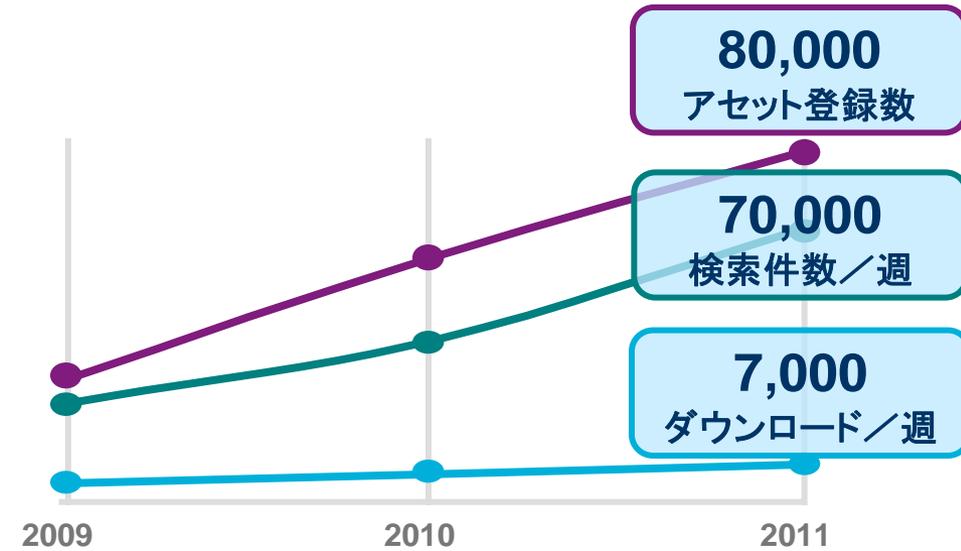
- 経済ガバナンス
- 測定の改善
(売上 / 要員数)
- より効率的なオペレーション
- 新しい製品への投資

変革の取り組み結果(グループ全体)

従業員一人当りの売上高

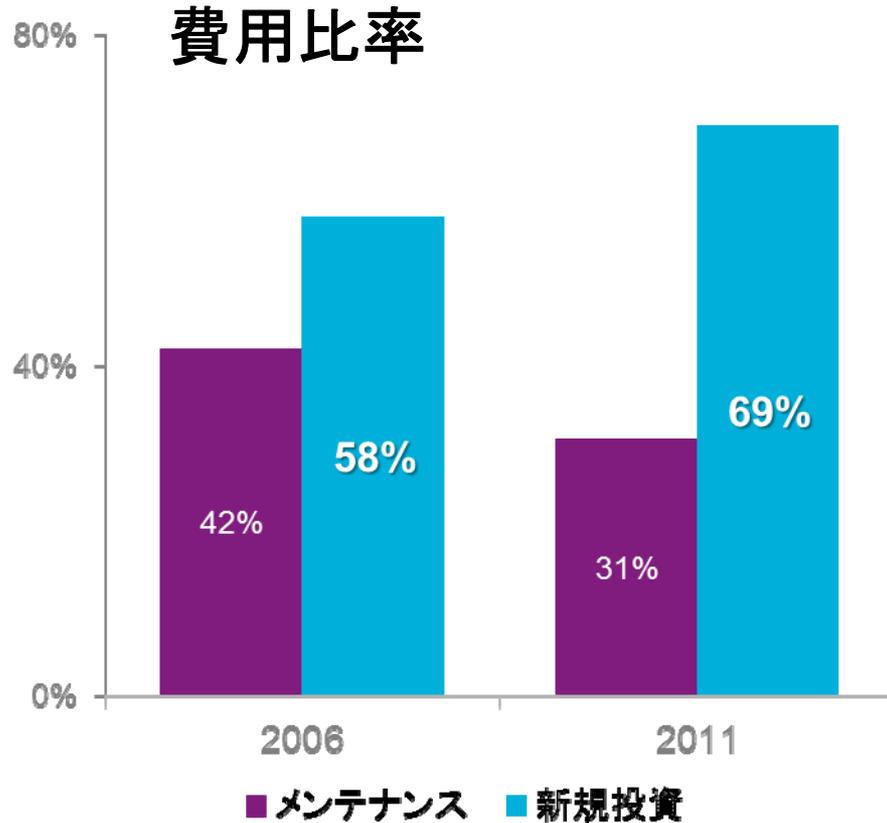


アセットの再利用が向上



廃棄コードや作業の手戻りを 4.5% 削減
さらに、メンテナンス・コストを 3億ドル 節約

IBM Rational における変革の効果



効率化指標	2006 → 2011	
	予定通りの出荷	47%
障害修正までの月数	>9	2.7
公開前に修正したベータ版の障害数	3%	95%
アジャイル / 反復プロジェクト数	5%	85%



コラボレーションの課題

あなたのチームでは...

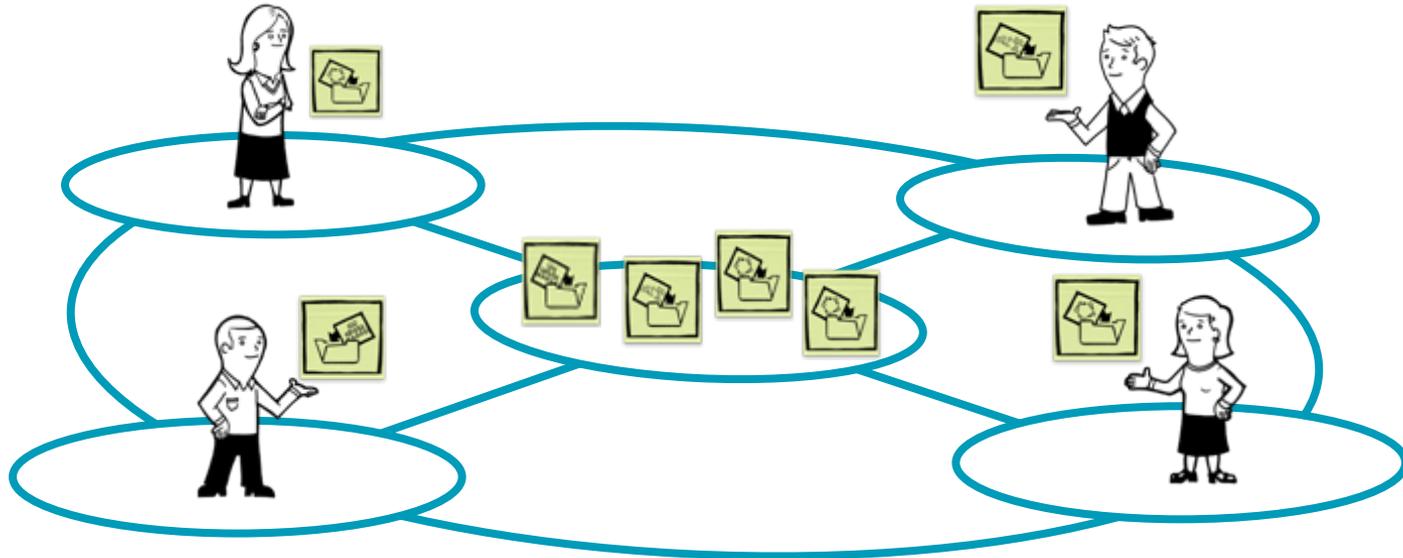
- 特定のタスクに関連したあらゆる情報を検索できますか？
- チーム・アクティビティの「誰が、何を、いつ、なぜ」をすばやく把握できますか？
- 新しいチーム・メンバーに状況をすばやく説明できますか？
- アウトソースおよび分散されたチーム・メンバーと作業を行う際に、複数の時差による障壁を乗り越えられますか？





コンテキストに応じたコラボレーションによる製品価値の向上

- 各チームがコラボレーションを行い、ソフトウェア開発の成果物をレビューする権限を持つことにより、フィードバックを早期に取り込み、多くの場合、ステークホルダーのそれぞれのビジョンにデリバリーを連携させることができる。
- 共有リポジトリでホストされる**唯一の情報源 (single source of truth)** が提供され、世界中のチーム・メンバーが効果的なコラボレーションにより、集合的なインテリジェンスを構築できる。
- すべてのチーム・メンバーが、各自の作業に関連する情報にすぐにアクセスできる。



コンテキストに応じたコラボレーションで、常に最新情報を表示



Comments (4)

- Bob to Deb, Marco 5 minutes ago (2 replies)

Percentage format - numer of decimal places

How many decimal places should we support for percent

Example: none - 16%, 1 decimal place 16.5%
- Marco to Bob, Deb 5 minutes ago

RE: Percentage format - numer of decimal place #1]

I checked the DB table. We did not take into account decimals for this percentage. If we are going to support decimals I need to know ASAP.
- Tanuj to Bob 1 minute ago

What is the minimum percentage?
- Deb to Bob, Marco Now

RE: Percentage format - numer of decimal places #2]

Bob, is no decimal support acceptable to the business?

要求についてのスレッド化されたディスカッション

View All Artifacts

Page size: 20

ID	Name	Artifact Type	Last Modified By	Last Modified Date
44	Accounts Overview	Part	JTSAdmin	Mar 26, 2011 5:43:06 PM
50	Transaction History	Part	JTSAdmin	Mar 26, 2011 5:43:10 PM
53	Accounts Overview (Home Page)	Sketch	JTSAdmin	Mar 26, 2011 5:43:11 PM
55	Dividend Contribution - screen flow	Screen Flow	JTSAdmin	Mar 26, 2011 5:43:11 PM
60	Account Details	Part	JTSAdmin	Mar 26, 2011 5:43:13 PM
67	Dividend Contribution	Storyboard	JTSAdmin	Mar 26, 2011 5:43:15 PM
75	Donor must be registered user to access account details	Business Rule	JTSAdmin	Mar 26, 2011 5:43:19 PM
79	Donors will receive confirmation and receipt	Feature	JTSAdmin	Mar 26, 2011 5:43:21 PM
89	Dividend contribution - confirmation	Sketch	JTSAdmin	Mar 26, 2011 5:43:23 PM

要求に関する最近のディスカッション (ハイライト箇所)

Work Items Tag Cloud Problems

Found 9 work items - Stories (current sprint)

Id	Status	P	Story Points	Summary	Owned By
55	New	13 pts	Frequency of dividend transfer	Deb	
59	Implemented	8 pts	Requests sent in form of email	Marco	
60	New	3 pts	Organization must identify how much money is desired	Marco	
62	New	1 pt	Organizations may apply with an initial request	Marco	
64	In Progress	2 pts	Customers can Nominate an Organization	Deb	
66	New	1 pt	Organization must provide justification for why funds are needed	Marco	
69	New	2 pts	Organizations can Apply	Marco	
70	In Progress	5 pts	Donor Dividend Allocation Criteria	Deb	
71	New	1 pt	JKE Charity Coordinator will respond to request in the website trigg...	Marco	

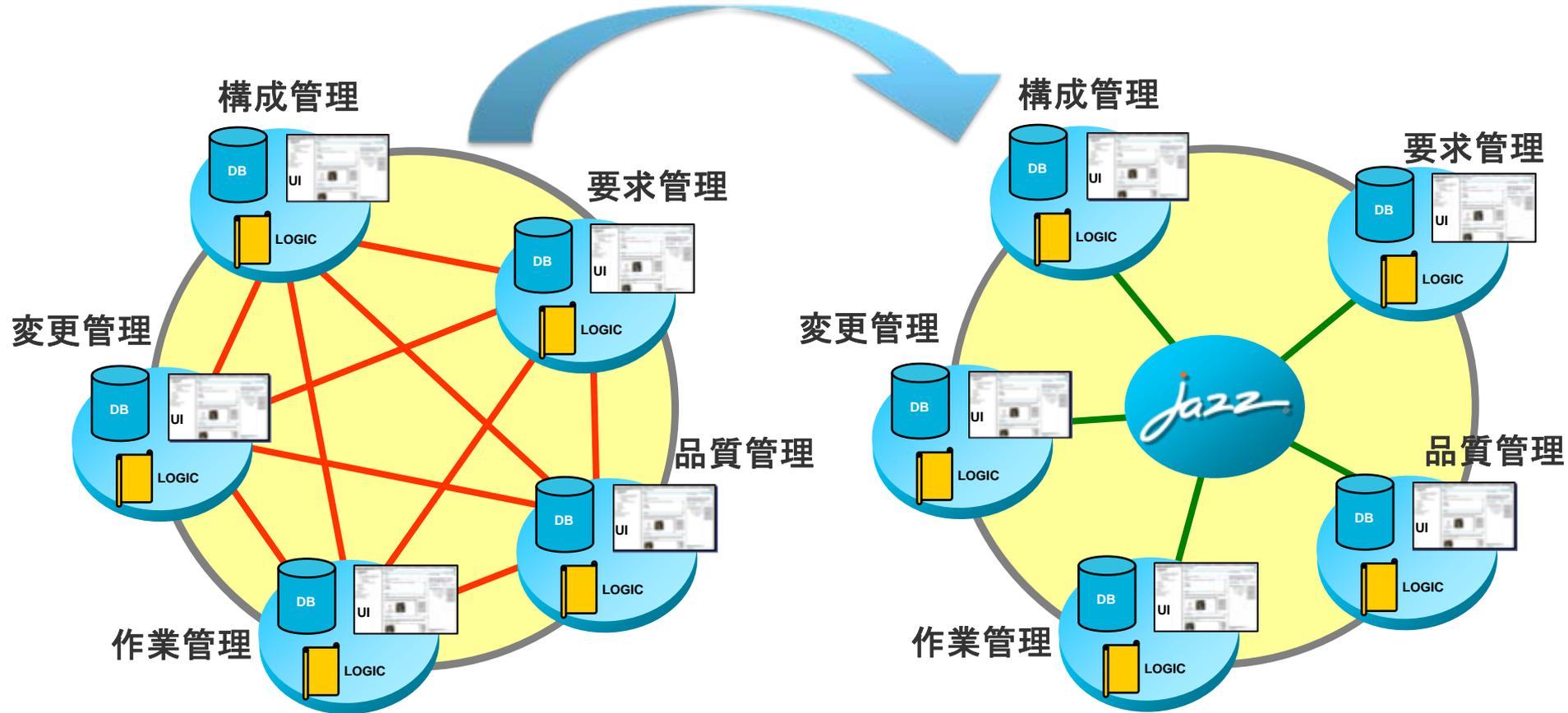
開発者向けに太字で表示された未読のワークアイテム

CLM ソリューション製品の紹介

Jazz プラットフォームへの統合による一体化

Jazz プラットフォーム統合

スター型からハブ・スポーク型でのツール／データ連携

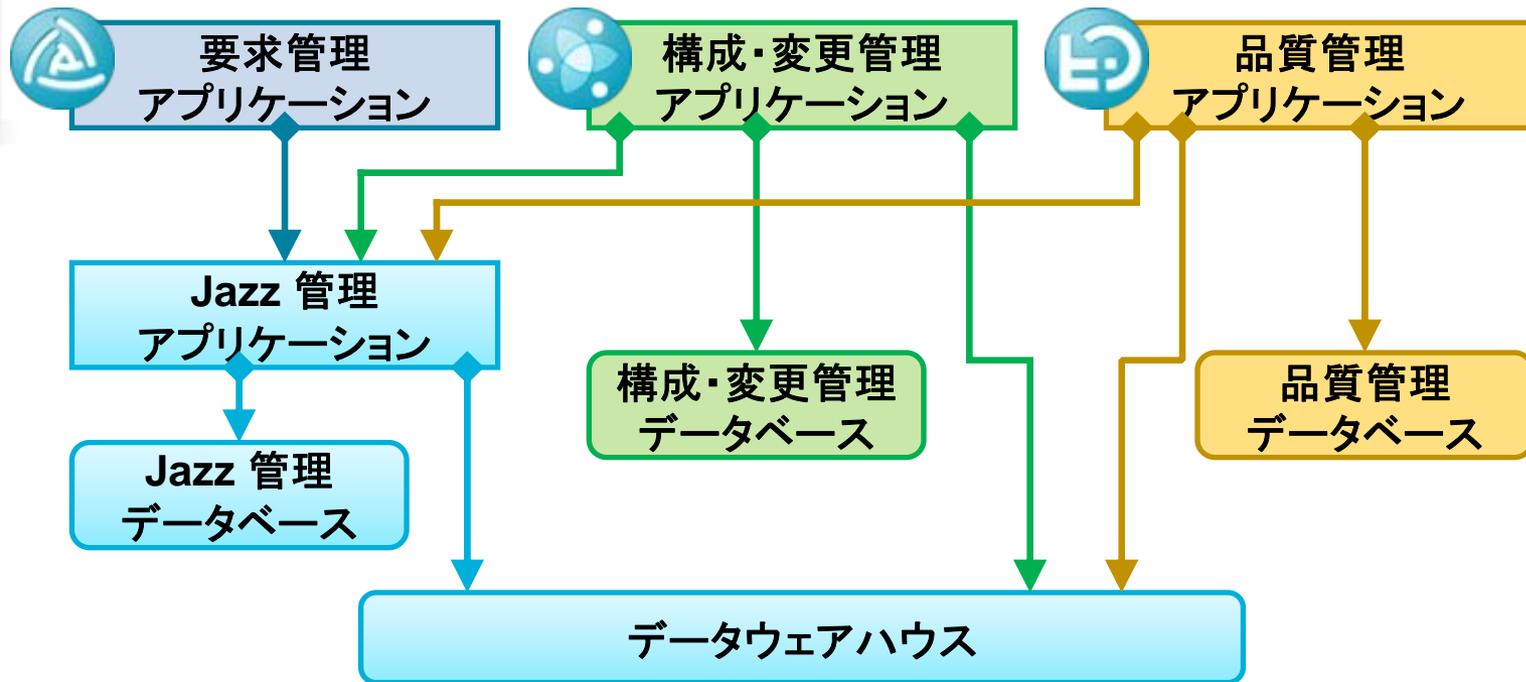


CLM ソリューションのトポロジー



- チーム・メンバー
- 利害関係者

HTTP / HTTPS



アプリケーション・サーバー / データベース・サーバー

Open Services for Lifecycle Collaboration (OSLC)

ソフトウェア・ライフサイクル・ツールによるデータ共有方法を
OSLC とは標準化する取り組み



Open Services for Lifecycle Collaboration
Web が促進するライフサイクル統合

- ▶ コミュニティー主導 – @ **open-services.net**
- ▶ 数多くの領域の仕様
 - ▶ 例: ALM、PLM および DevOps
 - ▶ シナリオによる定義 – ソリューション志向
- ▶ インターネット・アーキテクチャーによる促進
- ▶ 業界全体での普及に向けた異なるアプローチ



その仕組み



Web による推進



無償の使用と共有



業界の変化



GET INVOLVED AND CONTRIBUTE!



Rational Requirements Composer (RRC)

要求管理とドキュメント管理のサポート環境

定義・作成

- ✓リッチ・テキスト・ドキュメント
- ✓プロセス・ダイアグラム、ユースケース
- ✓ストーリーボード、画面スケッチ & フロー
- ✓用語辞書

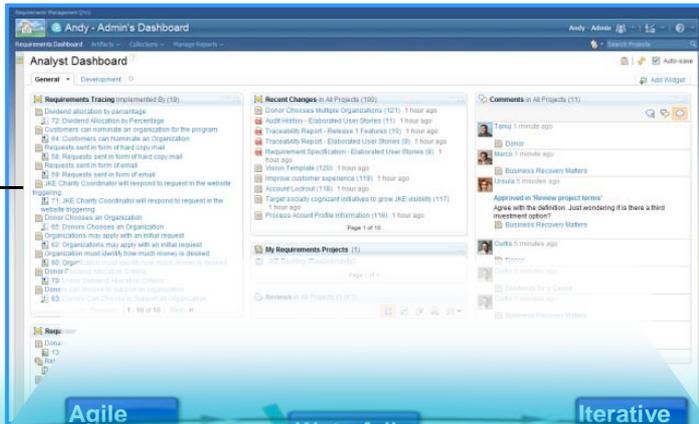
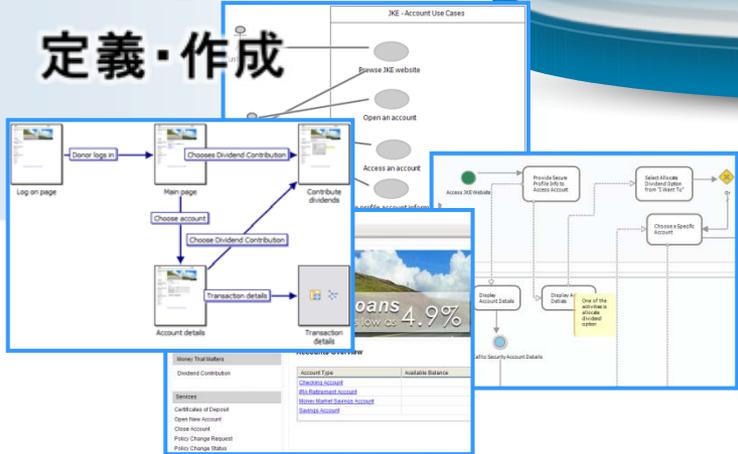
可視性

- ✓ダッシュボード、分析用ビュー
- ✓コレクション(グルーピング)
- ✓関係性の追跡

コラボレーション

- ✓レビュー & 承認、ディスカッション、QA
- ✓e-メール通知

定義・作成



定義・管理

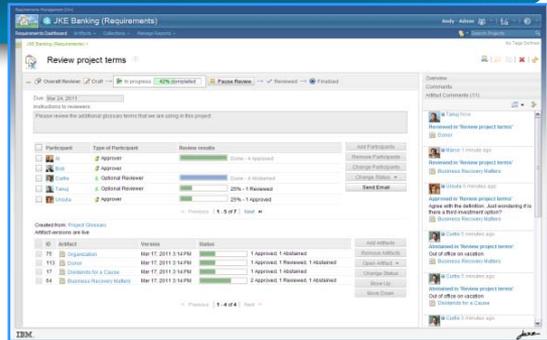
- ✓体系化、属性 / タイプ
- ✓ベースライン、変更履歴、再利用
- ✓メトリクス分析

ライフサイクル

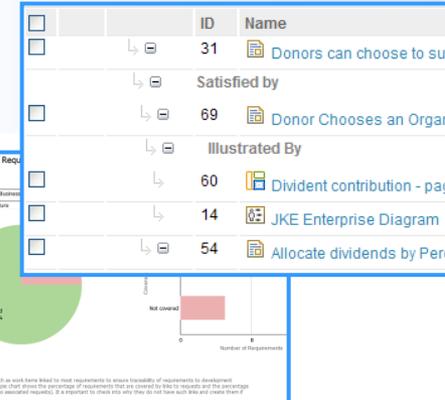
- ✓ライフサイクルの一元化リポジトリ
- ✓柔軟なライセンス方式

計画化

- ✓計画化機能の統合、見積もり
- ✓進捗トラッキング



体系化・可視化



レビュー・ディスカッション



Rational Quality Manager (RQM)

ソフトウェア品質のセントラル・リポジトリー

定義・作成

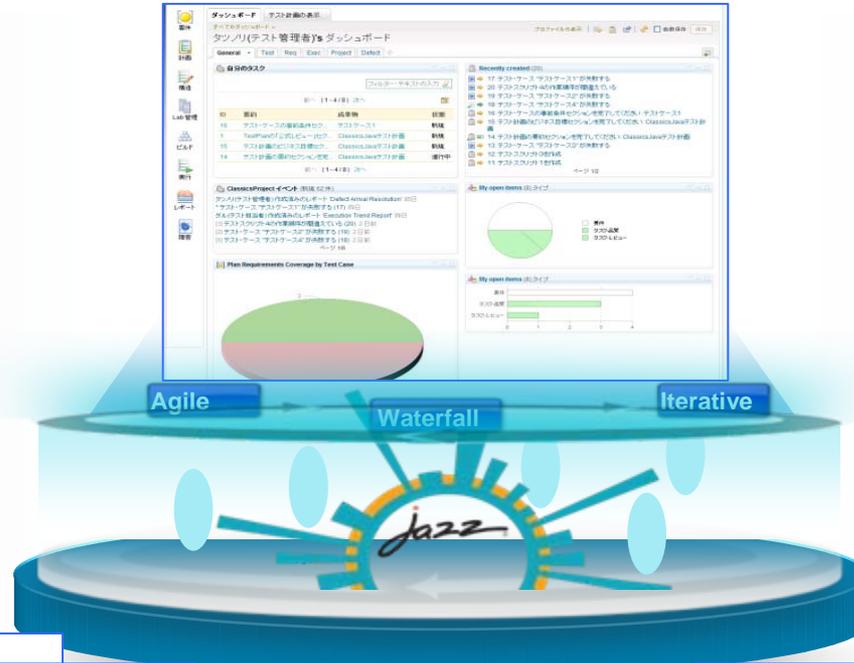
- ✓テスト計画
- ✓テストスケジュール
- ✓テスト見積
- ✓品質の目的
- ✓テストケース
- ✓開始/終了条件

可視性

- ✓ダッシュボード、レポート
- ✓関係性の追跡

コラボレーション

- ✓テスト計画
- ✓e-メール通知



管理

- ✓構造化、属性 / タイプ
- ✓トレーサビリティ
- ✓スナップショット、変更履歴、再利用
- ✓メトリクス分析

ライフサイクル

- ✓ライフサイクルのトレース
- ✓柔軟なライセンス方式

自動化

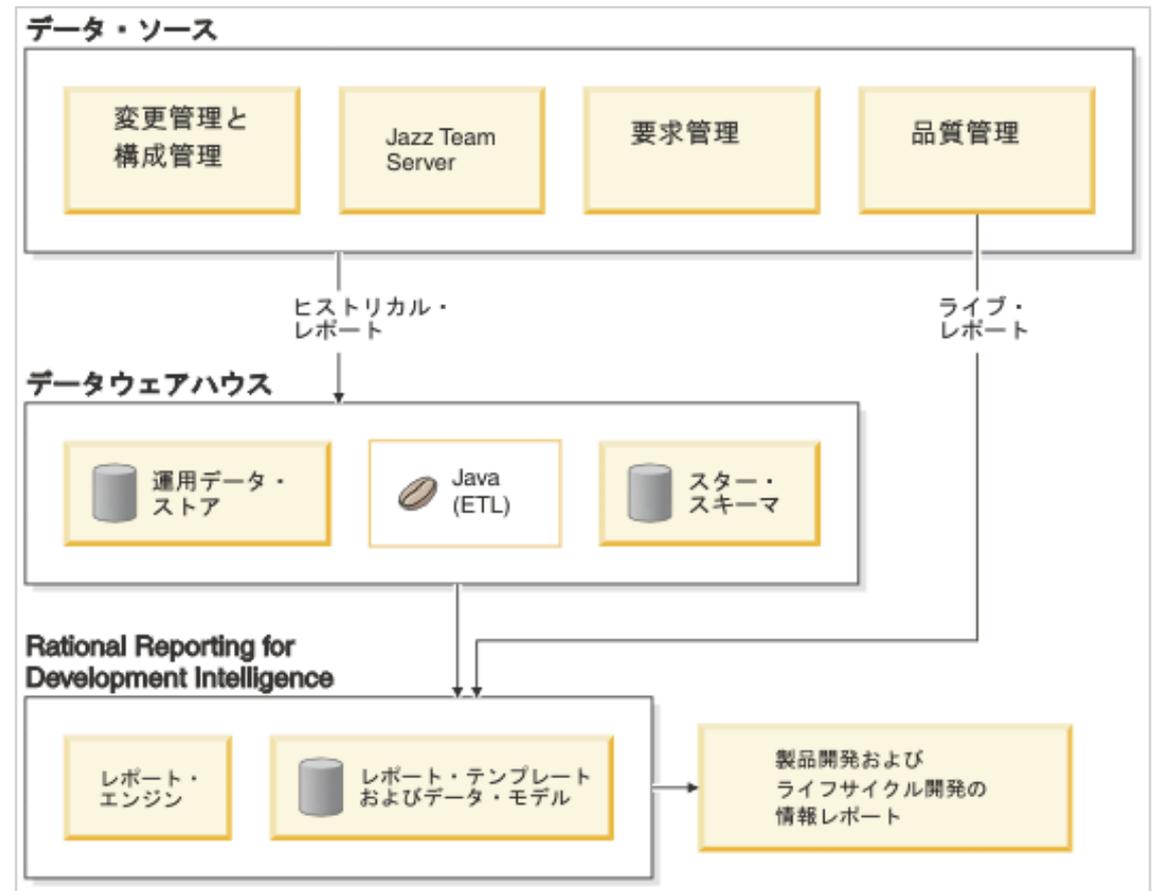
- ✓手動テスト・オーサリング
- ✓テスト対象範囲最適化
- ✓テスト・ラボ管理

定義・作成

管理・可視化

Rational Reporting for Development Intelligence (RRDI)

- Rational® Reporting for Development Intelligence は、レポート・サーバーとコンテンツ・ストアという 2 個のコンポーネントで構成されています。これらのコンポーネントは、ETL プロセスを介してデータウェアハウスと対話することにより、接続されているデータ・ソースのライブ・レポートを提供します。
- 主な機能
 - ETL
 - データウェアハウス
 - レポート・サーバー
 - コンテンツ・ストア
- Rational® Reporting for Document Generation を使用して、現行ビュー内のデータを HTML にエクスポートすることができます。



- CCM: 変更管理と構成管理
- RM: 要求管理
- QM: 品質管理
- JTS: Jazz™ Team Server

(参考) CC/CQとRTCの連携方法

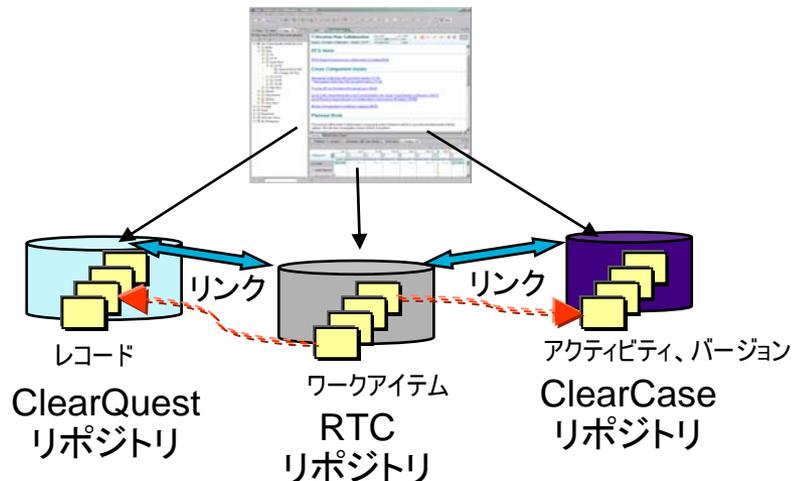
Bridges: CC/CQとRTCの情報のリンク

ClearCase Bridge

- RTCのワークアイテムに対応するUCMのアクティビティ、バージョンをリンク情報として作成/保持
- ClearCase 7.1.0.2, RTC 2.0以降 for CC UCM
- ClearCase 7.1.2, RTC 3.0以降 for Base CC

ClearQuest Bridge

- RTCのワークアイテムにCQのレコードをリンク情報として保持
- ClearQuest 7.1以降が必要



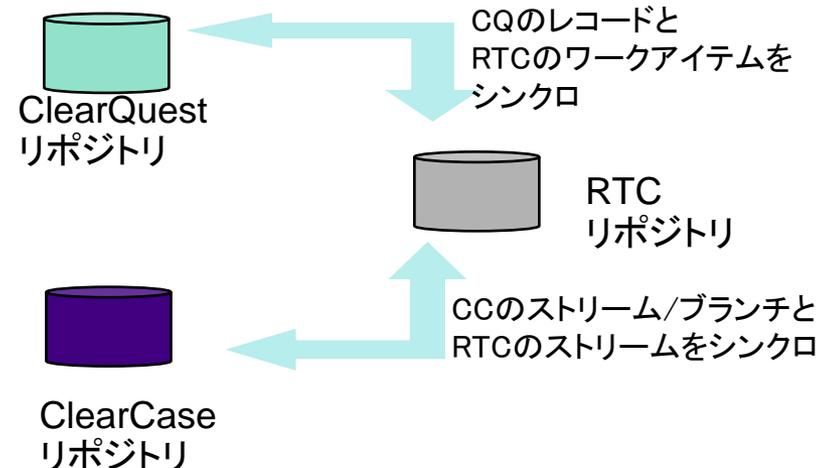
Synchronizers: CC/CQとRTCの情報のシンクロ

ClearCase Synchronizer

- CCのストリーム/ブランチとRTCのストリームをシンクロ
- ClearCase 7.x以降が必要

ClearQuest Synchronizer

- CQのレコードとRTCのワークアイテムをシンクロ
- 同期のためにClearQuest record スキーマとRTCのワークアイテムスキーマの内容をマッピングさせるルールの設定が必要
- ClearQuest 7.x以降が必要



CLM Products の基本的な特長と機能のポイント

Rational Team Concert の基本的な特長と機能

- 特定の目的でチーム・メンバーが変更セットをまとめて共有できるRational Team Concert の機能をストリームといいます。
- RTCではロードマップビュー機能があり、そこでワークアイテム間の依存関係を理解することができます。
- チームが利害関係者からのフィードバックを収集して返答するために役立つ Rational Team Concert の機能は、オンライン・レビュー とスレッド化されたディスカッションです。

Rational Requirements Composer の基本的な特長と機能

- 重要な用語の定義に同意できずにいる利害関係者の障壁を取り除くのに最適な Rational Requirements Composer の機能を、用語集を作成して、レビュー用に提出することが可能です。
- ユースケース・ダイアグラムとは、設計に焦点を合わせるのではなく、お客様との対話を視覚的にモデル化するために、利害関係者が作成すべき成果物をいいます。
- 利害関係者がユーザー・エクスペリエンスを視覚化できるようにするための成果物を、ユーザー・インターフェース・スケッチとストーリーボードで利用が可能です。

Rational Reporting for Development Intelligence (RRDI) および Rational Reporting for Document Generation (RRDG) の基本的な特長と機能

- コンプライアンス文書を作成することで、チーム・リーダーは、プロジェクトの要件を設計がどの程度満たしているかを実証する成果物レポートを作成できます。

CLM Products の基本的な特長と機能のポイント

CLM を単なる 1 つの製品ではなくソリューションとして説明

- Rational Quality Manager と、IBM Rational CLM のその他のコンポーネントとの統合によってもたらされる利点は、全員が障害とその影響に関する可視性を持つことと、テスト担当者はテスト・カバレッジのギャップをより簡単に確認できます。
- IBM Rational CLM は、状況を最新に保つ必要性和管理上のオーバーヘッドを、どのようにして最小限に抑えたために、カスタマイズ可能なダッシュボードとレポートを提供できます。
- Jazz プラットフォームが CLM にもたらす価値は、個々の製品をより簡単に統合できることです。

CLM の販売機会を考える

- IBM Rational CLM ソリューションの 1 製品を既に所有しているお客様の関心をも高めることです。
- IBM Rational CLM のコア製品のクロス (共有) ライセンスと機能の利点とは、お客様が他のコア製品を試してみようとする意欲の向上とかき立てられる既存の投資に対してさらなる価値が提供されることである。

IBM CLM 製品の主な競合製品を知り、IBM が市場のトップ

- IBM Rational CLM の主な競合製品は自社で独自に構築しているALMである。
- ガートナー社の 2010 年のレポート「MarketScope for Application Lifecycle Management」で同じランクの「Strong Positive」を受賞しているベンダーは他にはありません。
- IBM Rational CLM を競合他社の製品と差別化する機能は、共通の Jazz プラットフォームと OSLC のサポートです。

ALM の 5 つの行動規範のポイント

ALM の 5 つの行動規範のまとめ

- 5つの行動規範のうち、チームが予期しない問題に迅速に対応して計画を滞りなく進めるために最も役立つことは、リアルタイム・プランニングです。
- 5つの行動規範のうち、各チーム・メンバーが、他のメンバーの行動とその行動がワークロード全体に及ぼす影響を把握するために最も役立つことはライフサイクル・トレーサビリティです。
- 開発インテリジェンスの行動規範において予測可能性を向上する方法は、ファクト・ベースの意思決定を可能にすることです。
- 継続的な改善という行動規範は、どのような点でコストの削減に役立つことは、創造性のない手動タスクの自動化とチーム間での再利用のためのベスト・プラクティスを取得することです。

基本的な技術知識のポイント

CLM 製品のデプロイ、インストール、およびアップグレードに関する基本知識

- IBM Rational CLM ソリューションの推奨されるデプロイ方法はお客様が 1 つの機能に十分に馴染んでから次の機能を使い始めることができるよう、機能を段階的にデプロイすることです。
- お客様は、CLM ソリューションに対する完全なシングル・サインオン (SSO) のサポートを実装したいがこの機能は、WebSphere Application Serverが実現が可能です。
- IBM Rational CLM ソリューションがサポートするアプリケーション・サーバーは、IBM WebSphere とApache Tomcatです。
- 完全な IBM Rational CLM ソリューションをデプロイするときに独自のデータベースを必要としないアプリケーションは、要件管理です。
- お客様は事前定義されているデータベースとアプリケーション・サーバーを使用して IBM Rational CLM をデプロイしました。次に、本番用のシステムを準備するにあたってパフォーマンスと信頼性を向上したい場合はDerby から IBM DB2とTomcat から WebSphere Application Serverを推奨することが望ましいです。
- IBM Rational CLM ソリューションで評価用、およびより小規模なデプロイメント用に提供される事前構成済みの製品は、Apache TomcatとApache Derbyです。
- IBM Rational CLM 3.0.1.x へのアップグレードでは、サーバーは、別の物理マシンに移動できません。
- 1 回のサーバー・セットアップで IBM Rational CLM をデプロイすることの主な利点は、ワークアイテムの簡素化されたリンクです。
- IBM Rational CLM を分散セットアップする際に、Jazz Team Server (JTS) インスタンスを複数利用してデプロイする主な利点はバックアップおよびマイグレーション対象となるリポジトリを小さくできることと、保守時間帯のスケジュールが容易になることです。

ALM 製品と他の IBM Rational 製品の統合のポイント

ALM 製品と他の IBM Rational 製品との間でサポートされている統合

- IBM Rational Requirements Composer のバージョン 3.0.1 以降ではどの製品との統合がサポートは、Rational Software Architect Design ManagerとRational ClearQuestです。
- ClearCase により Source Control Management (SCM) サービスが提供される場合、Rational ClearCase を IBM Rational CLM 環境と統合するために使用すべき方法は、ClearCase Bridgeです。
- Rational Reporting for Development Intelligence (RRDI) と Rational Reporting for Document Generation (RRDG) の主な違いは、RRDI レポートは意思決定支援ツールとして使用され、RRDG レポートは成果物として使用されることです。
- Rational Reporting for Development Intelligence (RRDI) は、ダッシュボードとチャートが 3 つの CLM 製品のユーザーをサポートしなければならない場合は大変有効です。

CLM のライセンスおよびその構成のポイント

CLM のライセンスおよびその構成

- IBM Rational CLM ソリューションのライセンスは、各ユーザーがアクセス可能な機能に基づく利用になります。
- IBM Rational CLM ソリューションのすべてのアプリケーションにまたがるすべての機能に対する読み取り/書き込みアクセス権を持つ役割は、CLM Professionalです。
- Analystの役割が完全な読み取り/書き込みアクセス権を持つ CLM 機能は、要件管理です。
- IBM Rational CLM における製品は、製品ライセンスにおいては、インストールされている CLM アプリケーションの特定機能のロックを解除することです。

Jazz.net 及びCLM全般のポイント

Jazz.net に参加して、追加情報の検索、バグのレポート、および各種バージョンの製品のダウンロードを実行のポイント

- マイルストーンにより、お客様が進捗を見守り、フィードバックを提供できるようにするため、Jazz.net でほぼ 8 週ごとにダウンロード可能となります。
- お客様を Jazz.net のコミュニティに参加しようという気持ちにさせるには、CLM プロジェクト・ダッシュボードの監視と機能要求の提出とフォーラムへの投稿がポイントになります。

お客様に共通の CLM タスクについてデモンストレーション

- IBM Rational CLM アプリケーションのルック・アンド・フィールをお客様に体験していただく最も簡単な方法は、お客様を Jazz.net に招待して登録してもらい、セルフホスト型の CLM ソリューションを試してもらうことです。

CLM のインコンテキスト・コラボレーションについて

- インコンテキスト・コラボレーションでは、チーム・メンバーの生産性を高めるためには、情報の検索に費やす時間を短縮することです。
- インコンテキスト・コラボレーションでは、主にチームのレビュー、承認、およびコメントを容易にすることが可能であり、プロジェクトが利害関係者のビジョンとニーズを満たせるようにしていることです。
- ディスカッションを要件に直接添付することの主な利点は、すべてのチーム・メンバーが重要な情報にアクセスできるようになることです。

CLMの推奨のポイント

お客様にシナリオを示し、特定の CLM 製品と機能を推奨することでお客様がインコンテキスト・コラボレーションを達成するよう支援

- 完成した製品が利害関係者の要件を満たしていないために計画の変更が必要となることが頻繁にあるため、公式レビューと承認とスレッド化されたディスカッションを利用することが重要です。
- 開発者が複数の時間帯の地域に分散しているという障壁を乗り越えるために最も役立つために、Rational Team Concertが有効です。
- チームのメンバー達は、電子メール・スレッドの重要な情報や意思決定事項を頻繁に紛失しています。IBM Rational CLM では、ワークアイテムのコメントを @ 付きのユーザーに送ることと、オンライン・ディスカッションを要件のインコンテキストで取り込むことで解決が可能です。
- フィードバックの紛失によって、完成した製品が利害関係者のニーズや期待にそぐわなくなることが頻繁にあります。利害関係者とのコラボレーションの向上に最も効果的なやり方は、公式レビューと承認とスレッド化されたディスカッションを利用することです。
- 開発チームの複数のメンバーが、他のチーム・メンバーとは違う時間帯の地域で作業しています。そこで役立つことは、スレッド化されたディスカッションを持つ要件にリンクされたワークアイテムを利用することです。

CLMの推奨理由のポイント

お客様にシナリオを示し、特定の CLM 製品と機能を推奨することでお客様がリアルタイム計画を達成するよう支援

- 開発チームには、大量の仕事を抱えているメンバーもいれば、ほとんど何も割り当てられていないメンバーがおります、そこで「ワーク・ブレイクダウン」ビューで業務の標準化を図ります。
- グループが先に進むために完了しておく必要のあるタスクをチーム・メンバーが認識していないために、プロセスが行き詰まってしまうことが頻繁にあります。このような遅延を防ぐために最も役立つ IBM Rational CLM の機能は「ロードマップ」ビューに、チーム全体の依存関係が表示される機能です。
- 開発チームとテスト・チームは、別々に計画を管理しており、それらが適切に調整されていないことがよくあります。これらのチームが IBM Rational CLM を使用してより効果的に調整をするには、大きなワークアイテムを複数の作業分野にまたがったタスクに分解することと、リリース計画をテスト計画と要件にリンクさせることです。
- 組織では、計画活動に参加して実行するメンバーの獲得に困難を極める場合があります。この場合の販売担当者が推奨すべき IBM Rational CLM の機能は、チーム・メンバーが、日々の作業中に状況を更新できる機能です。
- チームでは、ALM ソリューションでアジャイルを使用したいけれど、毎日の現場レポートも保持しておきたいと考えています。このニーズを満たすために最適な IBM Rational CLM の機能は「タスク・ボード」ビューです。
- チームでは、複数の作業分野にまたがるプロジェクトの依存関係の追跡に苦慮しています。販売担当者が強調すべき IBM Rational CLM の機能は「ロードマップ」ビューを利用して確認が可能です。
- 実行者は、計画活動への参加に乗り気ではありません。販売担当者が提案すべき IBM Rational CLM の機能はチーム・メンバーの日々の作業中に状況を更新できる機能を利用して、計画活動を確認することが可能です。

ALM でのリアルタイム・プランニングの価値のポイント

ALM でのリアルタイム・プランニングの価値

- チーム全員にプロジェクトの全体的なスコープを理解させるためには、要件、開発、およびテストにわたる単一の計画を提供することです。
- 開発チームは、計画ができるだけ最新かつ正確に保たれるようにしたいと考えていますが、営業担当は、計画には、作業に対する更新が自動的に反映されることを通常は検討します。
- プロジェクトの状況をリアルタイムで確認できることの主な利点は、チーム・メンバーが、不測の事態により速やかに対応できることを実現することです。
- IBM Rational CLM のリアルタイム・プランニングの主な利点は、計画の正確さを保てるよう全員が貢献することができることです。

ライフサイクル・トレーサビリティと CLM 製品のポイント

ライフサイクルのトレーサビリティの価値を説明

- ライフサイクルのトレーサビリティでは、品質の向上がどのようにして実現するために、プロジェクトの完全性を可視化することで確認が可能です。
- ライフサイクルのトレーサビリティでは、品質の向上を、計画されているアイテムの完全性を可視化することと、関連する成果物に簡単にアクセスできるようにすることで実現します。

お客様にシナリオを示し、特定の CLM 製品と機能を推奨することでお客様がライフサイクル・トレーサビリティを達成するよう支援

- ビジネス分析者は、すべての要件が複数の作業分野を十分にカバーしているかどうか確信が持てません。そこで、「トレーサビリティ」ビューを利用して、確認することを実現します。
- 開発チームは、未解決の障害を確認する必要があります。このチームが使用すべき IBM Rational CLM の機能はライフサイクルのクエリーです。
- チーム・リーダーは、カバレッジ内のギャップの可視性を高める必要があります。このニーズを満たすために最適な IBM Rational CLM の機能は 色分けされたタグを利用することです。
- 開発者とテスト・チームとの間のコミュニケーション不足によって、進捗に遅れが出ています。販売担当者が強調すべき IBM Rational CLM の機能はテスト結果は影響を受ける作業に自動的にリンクされることと、開発者はテスト・チームに問い合わせることなく障害の正確な状況を確認できる仕組みを利用することです。
- 開発者は要件に関連するすべての成果物を追跡することが困難であると感じています。この問題を解決するために最適な IBM Rational CLM の機能は トレーサビリティ・リンク機能です。

ALM での開発インテリジェンスの価値のポイント

ALM での開発インテリジェンスの価値を説明

- 開発インテリジェンスでは、予測可能性の向上は、ファクト・ベースの意思決定を可能にすることと、チームが問題を早期に特定できるようにして実現します。
- プロジェクト情報のやりとりにダッシュボードが効率的な手段である理由は、データが把握しやすいように可視化されて表示されることと、さまざまなビューレットをサポートしていることです。

お客様にシナリオを示し、特定の CLM 製品と機能を推奨することでお客様が開発インテリジェンスを達成するよう支援

- プロジェクト・マネージャーは、要件カバレッジに関する情報レポートを頻繁に必要とします。このニーズを満たすために最適なオプション機能はQuery Studioです。
- テスト・チームは、テストが実行されていない要件のリストに迅速にアクセスする必要があります。販売担当者が強調すべき IBM Rational CLM の機能はダッシュボード・ウィジェットです。
- レポートの作成者は、開発チームとテスト・チームからのメトリックの収集に過度の時間をかけています。IBM Rational CLM では、このプロセスをサンプル・レポートと照会が組み込まれているとデータは、共通のウェアハウスに保存されるために簡素化されています。

ALM でのプロセスの改善の価値のポイント

ALM でのプロセスの改善の価値を説明

- ALM でのプロセスの改善の継続的な改善目標は手動の創造性のないタスクを減らすことです。
- 継続的な改善において、予期しない問題は、作業リズムを確立することで低減されることです。

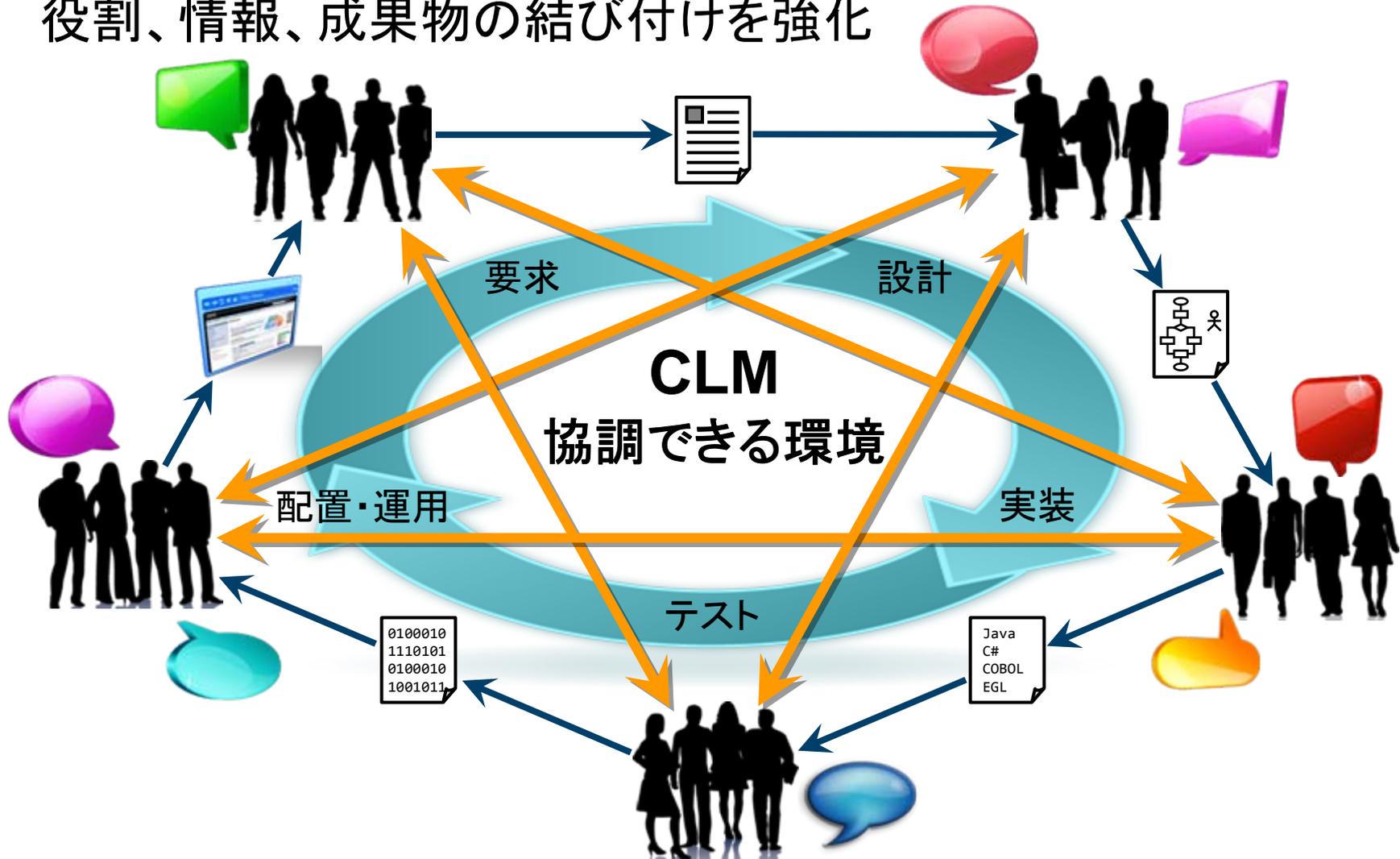
お客様にシナリオを示し、特定の CLM 製品と機能を推奨することでお客様がプロセスの改善を達成するように支援

- 将来のプロジェクトに実装したいプロセスを作成し終わりました。このチームでの CLM 機能ではプロセス・テンプレートを利用することでより効果を発揮します。
- アジャイル・ストーリーの作成時に、いつもストーリーを分析者、開発者、およびテスト担当者のタスクに分割していることに気づきました。このタスクを自動化するために使用するべき IBM Rational CLM の機能はワークアイテム・テンプレートです。
- ベスト・プラクティスを再利用するためには、IBM Rational CLM を効率的に利用するためには、プロジェクト・テンプレートを作成することです。
- アジャイル・チームが次のプロジェクトのために改善すべき領域を特定するのに役立つベスト・プラクティスは、割り振り項目を確定することです。

まとめ

Collaborative Lifecycle Management

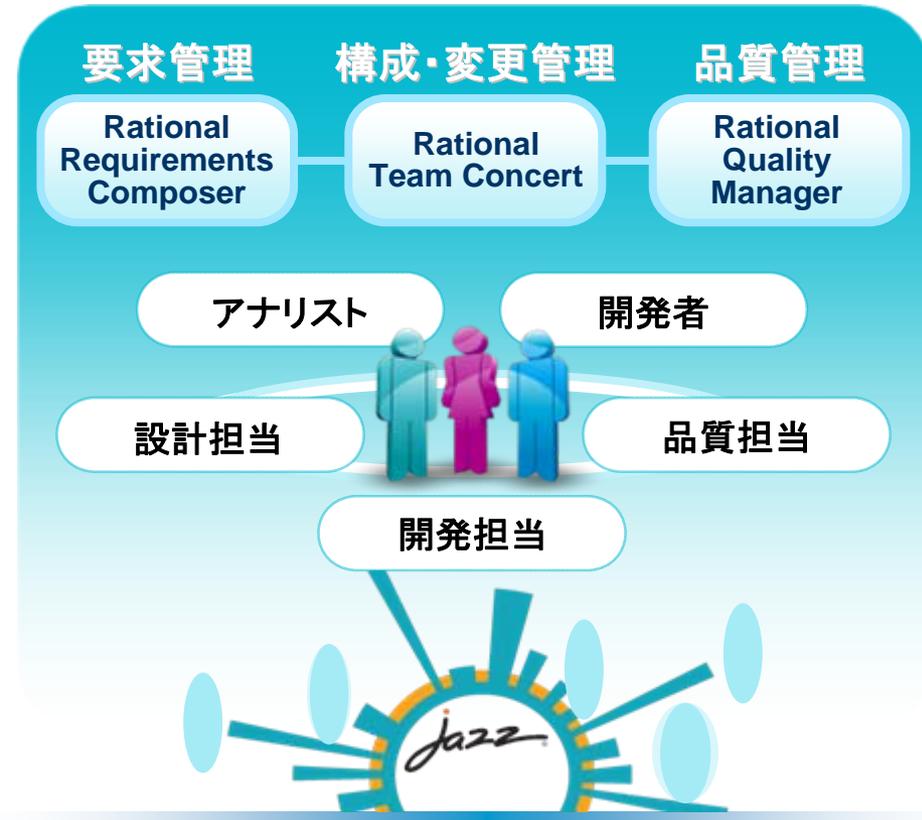
- 役割、情報、成果物の結び付けを強化



IBM Rational CLM ソリューション

- 5つの行動規範
 - リアルタイム・プランニング
 - ライフサイクルのトレーサビリティ
 - 文脈に応じたコラボレーション
 - 開発インテリジェンス
 - 継続的な改善
- 5つの目標達成
 - 開発リードタイムを短縮
 - 品質を向上
 - ソフトウェアの価値を高める
 - 予測の精度を向上
 - コストを削減

- 3つの管理インフラを統合



CLM がもたらすビジネス・バリュー

- Rational は、以下3つのテーマを通して、お客様のソフトウェア開発およびシステム運用のプロセス変革に貢献します



統合

ライフサイクルを
またがって統合化

- Rational、サードパーティー、および、インハウス・ツールの統合
- より良い追跡可能性の実現

品質向上



コラボレーション

チームおよび文化を
統一するための協調

- 統合し協調するワークフローやプロセスを規定
- グローバル分散チームによって、スケーラビリティが向上

組織強化



最適化

ビジネス成果の
最適化

- 状況に応じた開発計画および範囲の合意形成
- 統一したインフラによる活動および成果の測定

的確な判断